

講義名	19-防災まちづくり論/15-地域防災論			授業形態	
担当教員	植松 宏之/西井 和夫		開講期・曜日・時限	後期 月曜日 3時限	
			単位数	2	履修開始年次

### 主題と概要

東日本大震災を契機に、国土計画や地域計画における基本的なコンセプトとして『コンパクト・ネットワーク』が掲げられ、その中で『ダイバシティ』『コネクティビティ』『レジリエンス』の3つのキーワードが基本となっている。これは、少子高齢化・人口減少といった社会経済環境の変化への対応に加えて、地球温暖化などの気象変動のもとでの異常気象や大地震等への対応が喫緊の課題となっていることが背景にある。したがって、これまでの『防災』において基本的な『被害抑止』の考え方から、『減災』（計画外力を超える災害発生による被害を軽減する）の考え方にに基づき『災害に強いまちづくり』のための地域防災計画とそれに基づく『事前復興』を含めた地域防災対策・事業を実施する必要がある。そこで本講義では、このような地域防災の基本的考え方や計画手法について基礎的理解を深めるとともに、『災害に強いまちづくり』については、神戸市役所からの招聘講師による講義を組込むことにより、地域防災に関連する実務上の諸課題や実践事例を理解した上で、地域防災における『自助』『共助』『公助』への基本的理解、そして減災を念頭に置いた『地域防災まちづくり』についても基礎的素養を身につける。

### 到達目標

従来からの被害抑止のための『防災』と近年の被害軽減や事前復興を念頭に置いた『減災』の基本的考え方を理解できるようになる。  
 防災の基本となる『自助』『共助』『公助』とは何か、その関係性への理解とともに、個人としての防災・減災における責任・役割についての基本的理解と地域社会としての取り組みとしての『地域防災計画』や『災害に強いまちづくり』に関する理解を深めることができるようになる。  
 地域防災に関連する実務上の諸課題や実践事例を理解することができるようになる。

### 提出課題

基本的にはほぼ毎回、各自での講義内容の習熟度の確認を図るために、講義で取り上げたトピックに対応した課題演習を課する

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

原則、課題演習等は、次週に採点結果などの全体的な講評と個別のコメントを付し、フィードバックを図る。

### 評価の基準

定期試験は実施しない  
 平常点のみでの評価（課題演習や出席した講義への取り組み）

### 履修にあたっての注意・助言他

防災まちづくり論における基本的な理解は、防災・減災に関する専門基礎分野の基本的素養を身につけるだけでなくとどまらず、近年の発生確率が高い南海トラフ大地震などの巨大災害に対する自助・共助のあり方を理解する意義もあり、他の科目と性格を異にしている科目であることに留意すべきである。  
 なお、この科目は、「原則対面を実施する科目」です。コロナウイルスがまん延した場合、学長の判断により、対面とオンライン形式の並行講義にする可能性があります。

### 教科書

.使用しない。

### 参考図書

.なし。

### その他

基本的には、講義資料は講義時に配布する。事前に準備ができた場合は、RYUKA PORTALを通じて資料を配布する。

### 授業計画

1. 防災まちづくり論 総論（1）：講義の概要・意義（植松担当：No.1～No.6）
2. 神戸市からの招聘講師による講義（2）『ライプラインの被害』
3. 神戸市からの招聘講師による講義（3）『地域防災計画』
4. 神戸市からの招聘講師による講義（4）『水道管耐震化計画』
5. 神戸市からの招聘講師による講義（5）『震災復興区画整理』
6. 神戸市からの招聘講師による講義（6）『三宮都心再生計画』
7. 防災まちづくり論 国土計画における『防災』の考え方（西井担当：No.7～No.15）
8. 防災まちづくり論 『防災』と『減災』
9. 防災まちづくり論 『自助』『共助』『公助』
10. 防災まちづくり論 『企業としての共助』
11. 防災まちづくり論 『CSRとBCP』
12. 防災まちづくり論 『地域防災計画』
13. 防災まちづくり論 『災害に強いまちづくり』
14. 防災まちづくり論 『リスクマネジメント』
15. 防災まちづくり論 『これからの防災まちづくり』&後半部確認テスト

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A～L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

準備学修の内容や時間は、基本的に自分で判断すること。また準備学修よりもむしろ重要なのは講義を集中して聴講し、また講義中の課題演習に取り組むことである（講義中にスマホに夢中になって講義をしっかりと聴いていない学生は課題演習への取り組みは難しいと思われる。）  
 なお、大学設置基準では『2単位の講義では、1回の講義について4時間の自己学習が必要』とされていますので、そのことを踏まえ、自身の理解の不足部分について、予習・復習の合計が4時間になるように判断しない。

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

シラバスの到達目標を達成することにより、経済学を基盤にして、複雑化する地域社会で生起する問題を読み解き、解決策を提案することができること。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

基本的には、講義内容等の質疑応答で対応。ICTの活用は、非該当科目なので、その利用計画はない

### 実務経験の有無及び活用

植松：実務経験あり  
 西井：実務経験なし  
 神戸市からの招聘講師：実務経験あり

### 備考